

1. 概評

全般的に良好と認められる。各項目の数値は、全学平均を下回るものがなく、前年度と同様の傾向を示した。数値が低い項目については、一層の改善を図る。特に自主的な学習については、引き続き学科の課題として取り組み、学生・教員へ周知徹底する。

[学生]

授業への取り組み・出席状況は、概ね良好で、シラバスの事前確認も、前年度に比べ、数値が改善した。自主的な学習面も、0.1ポイント改善したが、全項目中で最低の数値であり、更に継続して取り組む。

[授業[内容]]

授業内容については、前年度と同様に、シラバスに則した授業が実施され、また学生の理解度を考慮した授業運営がなされていると認められる。

[授業[教え方等]]

教授方法については、概ね良好で、前年度に比べ、0.1ポイント数値が改善した。板書・OHPなどの使い方についても、同様に僅かながら改善の効果が認められたが、更に公開授業等のFD活動も参考に、工夫を重ねる。

[環境・設備等]

学習環境については、ほぼ良好と認められる。参考資料については、今後も図書館と連携し、その充実に努める。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	2	14	54	21	ほぼ良好の数値で、前年度に比して僅かながら数値が改善した。数値の低い科目は、必修科目、資格関連科目の一部であった。
2	3.9	0	0	0	13	44	34	積極的に授業に取り組む学生の姿勢が認められた。特に実習・演習科目を中心に、数値が高い点は、前年度と同様であった。
3	4.3	0	0	0	1	4	86	前年度から引き続き、学生の出席状況は、良好と言える。
4	3.4	0	1	17	39	20	14	特に低い数値の科目の傾向は指摘しにくい。自主的な学習の捉え方についても確認すべきか。
5	3.7	0	0	3	20	46	22	ほぼ良好の数値と言える。低い数値の科目の傾向は、特に指摘できない。
6	3.8	0	0	3	17	37	34	全般的に学生の理解度に応じた授業運営がなされている。
7	4.0	0	0	3	6	26	56	概ね良好である。
8	4.1	0	0	2	6	24	59	概ね良好である。
9	3.8	0	0	2	15	35	38	前年度に比して 0.1 ポイント数値が向上しており、概ね良好と認められる。
10	4.1	0	0	0	4	35	52	前年度に比して 0.1 ポイント数値が向上しており、概ね良好と認められる。
11	4.1	0	1	0	3	21	66	前年度と同様、ほぼ良好と認められる。2.5 以下の科目については、状況を確認した上で教室配置を行う。
12	3.6	0	0	2	23	54	12	前年度と同じ数値で、ほぼ良好と言えるが、参考資料の整備が更に進められるよう、図書館に働きかける。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

〈今後の方針〉

- ・教員、並びに学生に対して、授業改善アンケートへの意識を喚起すると共に、数値が低い項目については、個々の授業で改善が図られるよう、働きかける。

〈大学への要望〉

- ・授業改善アンケートを公開するならば、年度初めに、教員（非常勤講師含む）に告知すべきではないか。年度途中で急遽公開というのは早急すぎる。
- ・来年度以降の公開にあたっては、授業改善アンケートの項目が、必ずしも授業内容と合致していない場合もあり、アンケート内容の再検討をお願いしたい。もし、現在の形を継続する場合は、不要の質問項目については、非公開の形にする等の対応をお願いしたい。
- ・上記に関連し、質問項目の「9. 板書・OHP・POWERPOINT 等の使い方が適切か」について、学生側からは、板書だけでなく、どの機材も使うことが前提のように理解できる内容となっているので、検討してほしいという要望が寄せられた。
- ・非常勤講師の先生から「教師として、学生に身につけさせたいレベルを目指して授業を行っているのに対し、そのレベルに到達できない学生からわからない・つまらないという評価を受けることもある。こうした学生の評価だけで良い授業・悪い授業という評価がなされ、それが雇用の問題と関わることは困る。」というご意見が複数寄せられた。公開を実施するにあたって、こうした懸念が寄せられているので、再度この授業改善アンケート公開の趣旨説明について、ご検討いただきたい。

1. 概評

学科平均が全体平均より下回っているものが 12 項目中 2 項目 (No. 2、No. 3)、上回っているのが 2 項目 (No. 6、No. 9)、それ以外は同等であった。概ね良好な結果となっているが、引き続き改善の方策を検討していきたい。

[学生]

シラバスの事前確認 (No. 1) と授業外の自主的な学習 (No. 4) は 3.4 と全項目中で最も低い評価となっている。教室での積極的な取り組み (No. 2) と出席状況 (No. 3) において数値は低くはないものの、全体平均より下回っている。教室内外での積極的・自主的な取組を奨励したい。

[授業[内容]]

両項目とも 3.5 以上の数値となっており、授業内容の理解 (No. 6) は全体平均よりも上回っている。学生は授業内容を概ね理解できたと評価しているようだ。

[授業[教え方等]]

全項目とも 3.8～4.0 の高い数値となっており、板書などの適切な使用 (No. 9) は全体平均よりも上回っている。学生は教え方等については概ね満足していると評価しているようだ。

[環境・設備等]

両項目とも 3.5 以上の数値となっている。学生は環境については満足していると評価している。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価 (全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.4	0	3	37	51	37	6	前年度 (の前期) と比較すると 0.1 ポイント向上している。必修科目の評価が低い。必修であっても受講前にシラバスを確認するよう指導を徹底する。
2	3.8	0	0	1	33	71	29	前年度より 0.1 ポイント減少している。評価が 4.0 以上の科目は比較的履修者数の少ない傾向が見られる。
3	4.1	0	0	1	7	47	79	前年度より 0.1 ポイント向上しているが、全体平均よりも 0.2 ポイント低い評価となっている。学生の出席を促す授業形式・内容を心がける。
4	3.4	0	1	14	72	42	5	前年度よりも 0.1 ポイントだけが減少している。教室外で自主的な学習が行えるよう授業の取り組みに配慮する。
5	3.5	0	0	16	52	56	10	前年度 (の前期) の評価と同じ数値であった。評価が 3 以下にスキル科目が多い。共通シラバスを履修者の習熟度に合わせて調整・変更したためと考えられる。
6	3.8	0	0	6	31	59	38	前年度 (の前期) の評価とは同じ数値であるが、今学期の全体平均より 0.1 ポイント高い。少人数の演習科目の評価が高い傾向が見られる。
7	3.9	0	2	10	18	48	56	前年度の前期と同じ数値の高い評価となっている。
8	4.0	0	2	4	20	39	69	前年度の前期と同じ数値の高い評価となっている。
9	3.8	0	2	6	34	58	34	前年度 (の前期) よりも 0.1 ポイント上昇し、全体平均よりも 0.1 ポイント高くなっている。パワーポイントや視聴覚教材の使用が増えていることも一因であろう。
10	3.8	0	0	5	32	52	45	前年度の前期よりも 0.1 ポイントであるが減少している。配付資料、教材について一層の改善をはかりたい。
11	4.0	0	0	0	16	53	65	前年度 (の前期) と同じ評価で、学習環境について学生はほぼ満足しているようだ。
12	3.5	0	0	13	71	42	8	前年度の前期よりも 0.1 ポイント上昇している。専門科目の評価が高く、スキル科目の評価が低い傾向が見られる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

平成 21 年度前期からは Web 履修が開始されること、便覧に授業概要が記載されなくなることから、シラバスがこれまで以上に重要になる。学生には、どの科目であっても事前確認を確実に行うように指導する。また教員に対しては、より具体的なシラバスの作成を依頼する。さらに変更の場合の説明、連絡を徹底するようお願いしていきたい。

学生の基礎力を確かなものとして、その上で教室内外での積極的・自主的な取り組みができるよう、配慮していきたい。

授業内容・教え方等については概ね良好な評価であったが、公開授業、FD 講演会、FD サロンなどの機会を活用して、一層の改善をはかる。

図書館の活用法については、1 年の基礎ゼミや 3 年後期のゼミ単位で行う図書館ガイダンス等を通して、学生に周知させる。各専門授業の中で参考図書などについての情報を学生に教える。

1. 概評

前期開設科目のうち 10 名以上の受講者のいる 71 科目についてアンケートを実施した。学科平均を全体平均と比べてみると、2 項目が上回り（no. 1, 5）、7 項目が同じ値で、3 項目が下回った（no. 2, 4, 7）。

全体的に見て、歴史文学科の専門科目はとくに問題なく授業が行われていると思われる。

[学生]

概ね真面目に授業に出席しているが、なかには自主的な学習をおこなっていない学生が含まれている。

[授業[内容]]

授業内容は全般的によく理解されているといえる。

[授業[教え方等]]

説明の仕方、板書やパワーポイントの見せ方、配布資料について、学生たちはほぼ満足していると判断できる。ただし個々の授業で取り上げる分野や内容、あるいは受講者数によって評価のされ方に違いがでている。

[環境・設備等]

少人数授業が多いせいか、押しなべて学習環境への不満は少ないようである。参考書等の図書資料に関しては、学科の特性を考えると、さらなる充実が望まれる。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	3	21	30	17	評価は全体平均よりも高く、良好といえる。必修の授業のシラバスはあまり見られていない傾向にある。
2	3.8	0	0	0	13	41	17	授業への取り組みはとくに積極的とはいえないが、全体的にはほぼ良好だといえる。
3	4.3	0	0	0	2	5	64	出席状況は良好である。
4	3.2	0	0	16	40	11	4	全体平均より0.2ポイント低く、授業外の自主的な学習を心がけるよう促したい。とくに必修科目と実習系の授業での評価が低い。
5	3.6	0	0	4	21	38	8	授業内容が予想と異なると評価された授業は、シラバスを確認しないで学生が履修している傾向にある。
6	3.7	0	0	2	17	37	15	概ね授業内容はよく理解されている。必修と資格関連の科目のなかで評価が分かれた。
7	3.8	0	0	1	16	25	29	大部分の授業で説明は明快だと評価されている。ただ受講生の多い授業では、その評価が低くなる傾向にある。
8	4	0	0	0	9	24	38	少人数の授業が多いせいか、説明がよく聞き取れている。
9	3.7	0	0	2	22	26	21	視覚的な教材を多く見せる授業では評価が高くなる傾向にある。多人数の授業では効果的な使い方が求められる。
10	3.8	0	0	1	10	30	30	全体的には問題ないが、配布資料の多い授業の方が学生から歓迎されているのかどうか、その傾向を把握したい。
11	4	0	0	0	7	24	40	授業の環境に対する満足度は高い。少人数授業が多いためと考えられる。
12	3.5	0	0	2	38	25	6	全体平均と同じ値だが、学科の特性を考えると、この評価が上るように努力したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

1. 当学科の学生の授業の取り組みは、真面目であると同時に、積極性に欠ける場合がある。授業へのより積極的な参加や授業外での自主的な学習を促すために、教員の授業の進め方や課題の出し方などでよりいっそうの工夫が求められる。また授業に関連ある学外の博物館・美術館の展覧会、公演、あるいは講演会やセミナーの紹介を通じて、学生の学習意欲を喚起していきたい。
2. 学生に1年次からシラバスの活用を習慣化させたい。とくに Web 履修登録に対応して、UPSHOWA のシラバス閲覧をきちんとガイダンスする必要があるだろう。
3. 学生の授業評価を、単なる数値結果で判断するのではなく、各授業の特性に即して活用していきたい。すなわち大人数で行われる学年ごとの必修授業、実験実習系の授業、興味のある上級生だけ履修する少人数の専門授業などの評価の違いを分析したい。
4. 非常勤講師の授業評価のなかに学生のはっきりとした不満が表れている場合は、その原因を分析して改善に協力したい。今回は、特定の授業に不満が集中していることはなかった。
5. 学科の専門からみて、図書館の参考図書の充実は最も優先される課題である。教員からの図書の推薦を積極的かつ継続的に行う必要がある。

1.概評

全体としては前年度前期の評価とほぼ同様な結果であり、際だって良好とまではいえないまでも、良好な状況であった。しかしながら、さらに評価を改善すべく、取り組む必要があると思われる。

[学生]

シラバスを受講前に確認している学生の割合と授業外での自主的学習をしている学生の割合は高いとはいえない状況である。シラバスの事前確認を徹底するよう、クラス主任を通じて指導したい。また、具体的な確認方法も併せて指導する必要があると考えている。自主的学習をしている学生の割合は極めて高いとはいえないが、授業で出された課題を行っている学生の割合は高いと推察される。出席状況は、大学全体も学科全体も良好である。また、授業に積極的に取り組んでいる学生の割合は昨年度と同様に良好である。

[授業[内容]]

授業内容とシラバスとの整合性に関する評価と授業内容の理解に関する評価は、昨年度と同様であるが、さらなる改善のために、シラバスに関しては、各授業担当教員に授業内容とシラバスの整合性を再確認してもらい、授業内容の理解に関しても、学生の理解度を確認しながら授業をすすめるような工夫を各授業担当教員に要請したい。

[授業[教え方等]]

説明の明快さと話の聞き取りやすさは、大学全体よりもやや低めであり、板書、OHP、パワーポイント等の使い方の適切さと配付資料、教材等の効果は、大学全体とほぼ同値であった。非常に高い評価とはいえないが、総じて良好であるといえよう。さらなる改善のために、説明のわかりやすさと資料の使い方等について、各授業担当教員に対し、適切かどうかの再確認を要請したい。

[環境・設備等]

学習環境の評価に関しては、大学全体よりもやや低めであるが、図書館の参考図書の整備状況については、大学全体とほぼ同様の評価である。授業で使用する教室の広さとパソコン教室に関する評価が低いと推察されるため、全学的に人数規模に合った教室が使用されているかどうか、教育支援センターに確認を要請したい。また、パソコン教室のパソコン台数が不足しているため、1教室あたりのパソコン台数を増やしたり、必修授業において 100 人規模の人数で一斉に授業ができるパソコン教室の設置を大学に要請したい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.4	0	0	7	16	12	3	大学全体の平均と同値であり、昨年度よりも0.2ポイント上昇したが、3点未満が7科目存在する。クラス主任等を通じて事前指導を徹底したい。
2	3.7	0	0	0	11	19	8	大学全体の平均よりも0.2ポイント低いが、ほぼ同値である。昨年度とは同じ値であり、良好といえる。
3	4.4	0	0	0	0	2	36	大学全体の平均とほぼ同値であるほか、昨年度の平均とも、ほぼ同値である。非常に良好である。
4	3.1	0	0	18	14	4	2	大学全体の平均と同値であるうえ、昨年度の平均とも同値であるが、3点未満が18科目存在する。「自主的学習」ではない「宿題」は多くこなしていると考えられる。
5	3.4	0	1	1	21	12	3	大学全体の平均とほぼ同値であるほか、昨年度の平均とも、ほぼ同値であるが、3点未満が2科目存在する。当該授業科目担当者を含め、再確認を実施したい。
6	3.5	0	1	2	16	10	9	大学全体の平均よりやや低めであり、昨年度の平均とほぼ同値であるが、3点未満が3科目存在する。当該授業科目担当者に確認を要請したい。
7	3.7	0	1	1	13	10	13	大学全体の平均よりやや低めであり、昨年度の平均とほぼ同値である。全体としては良好であるが、3点未満が2科目存在するため、担当者に確認を促す。
8	3.8	0	0	2	6	13	17	大学全体の平均よりやや低めであるが、昨年度の平均とほぼ同値である。良好であるといえるが、3点未満が2科目存在するため、改善を要請したい。
9	3.6	0	0	2	15	11	10	大学全体の平均とほぼ同値であるほか、昨年度の平均とも同値である。パワーポイントを使わない授業の評価が低い可能性がある。
10	3.8	0	0	1	9	12	16	大学全体の平均と同値であるほか、昨年度の平均とほぼ同値であり、良好であるといえる。
11	3.7	0	0	5	8	11	14	大学全体の平均よりやや低めで昨年度と同値であり、良好ではあるが、3点未満が5科目存在することから、使用教室の適切化とパソコン教室の充実を要請したい。
12	3.4	0	0	0	28	8	2	大学全体の平均とほぼ同値であるほか、昨年度の平均より0.2ポイント上昇した。授業で使用頻度の高い図書を複数冊購入してもらっているためと考えられる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

シラバスを事前に確認していない学生が毎年度、一定の割合で存在し続けているため、事前確認の指導を徹底させる。また、授業への積極的な取り組みに関しては、授業内容に興味を持たせるような課題を出すなどの工夫が必要と考えられる。さらに、授業外での自主的学習に関しては、宿題が含まれないために評価が低めになっていると考えられるが、この点についても、自主的学習を促進させる工夫を学科教員全体で考えていきたい。

授業内容に関しては、シラバスと授業内容との整合性はあるが、ごく一部の科目に、シラバスを見た予想と授業内容がやや異なると判断されたものがあるため、当該科目の担当教員を含め、学科全教員で再度シラバスの確認を実施する。また、授業内容の理解度については、大学全体の平均よりも低めであるが、教え方等の評価の中の、話の聞き取りやすさと説明の明快さとも関連すると推測できるため、聞き取りやすく話すことと、説明を明快に行うことを心がけるよう、学科全教員で問題を共有し、改善を図りたい。

学習環境に関しては、授業で使用する教室の広さとパソコン教室に関する評価が低いと推察される。可能な限り受講者の人数規模に合った教室が使用できるよう、教育支援センターに改善を要望したい。また、パソコン教室の1教室あたりのパソコン台数が不足しており、パソコンが1人に1台ずつ割り当てられなかったことなどが評価を下げていると考えられるため、大学に対し、1教室あたりのパソコン台数を増やすことと、100人規模で一斉授業ができるパソコン教室を設置してもらえるよう要望したい。また、図書館資料に関しては、昨年度よりやや評価が上昇しており、今後も資料の充実を図るべく、引き続き図書館に資料の購入を積極的に依頼する。

1.概評

[学生]

前年度に引き続き出席状況は極めて良好であり、授業に臨む姿勢も積極的になってきた点が評価できる。前年度からの課題であったシラバスの事前確認についてもやや改善された。次年度からWeb履修登録になることもあり、さらに改善できるものと思われる。授業外の自主的な学習について、授業によって評価に差が見られるので、個々の授業担当者による改善が求められる。

[授業内容]

従来から資格科目を中心に、演習・実技系の評価が高い傾向にあったが、講義科目の理解度についても個別に改善が見られた。また、シラバスの事前確認が進んだためか、授業内容がシラバスに示されている通りだったと評価する学生も増加した。

[教え方等]

全体的に教え方（説明の明快性・話の聞き取りやすさといったプレゼンテーション能力）についての評価が前年度よりも0.1ポイントほど低下している。個々の授業担当者による改善が求められる。また、演習・実技系の科目は、板書やパワーポイント等の機器を使用せずに進めることが多いためか、やや評価が低く出る傾向があるものと思われる。

[環境・設備等]

学習環境は概ね良好と評価されているが、履修者が100名から200名の科目について、低い評価となっていた。全学的に学習環境を整備していくとともに、学科としても時間割を工夫するなどして、適切な教室の確保に努めていきたい。また、参考書等の整備状況についてやや不十分な科目が見られた（2級建築士系科目）。図書館の活用の仕方を含め、改善の余地がある。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.2	1	0	14	35	13	0	シラバスの事前確認について1年生の必修科目が低い傾向にあった。教務ガイダンス時に徹底したい。また21年度からWeb履修登録になるので改善を期待したい。
2	3.8	0	0	0	13	30	20	前年度に比べ、積極性についての評価が高まった。特に前年度は受動的な傾向があった「基礎演習」について改善がみられた。
3	4.3	0	0	0	0	3	60	前年度に引き続き、出席状況は極めて良好である。資格関連の必修科目・選択必修科目が多いためであると思われる。
4	3.3	0	0	5	41	11	6	授業外での自主学習については、実習・演習・実技系授業での評価が高い。前年度よりも3.5以上の度数が増加している。さらに自己学習の習慣をつけさせたい
5	3.4	0	0	5	37	19	2	シラバスどおりの授業展開がなされているようである。
6	3.6	0	0	2	25	21	15	前年度に引き続き、実習演習系の科目のみならず、講義系の科目についても平均的に理解できているようである。
7	3.7	0	1	1	22	21	18	前年度に比べて、学科平均が0.1ポイント下がっている。今年度から各教員が授業改善報告書を作成することになったので、次年度に活かされるよう期待したい。
8	3.8	0	1	3	13	26	20	前年度に比べて、学科平均が0.1ポイント下がっている。今年度から各教員が授業改善報告書を作成することになったので、次年度に活かされるよう期待したい。
9	3.5	0	0	6	24	18	15	実技・演習系科目は板書をするとは限らないので、評価しづらい項目である。そのため、他の項目に比べてやや低い評価になっているものと思われる。
10	3.7	0	0	4	18	23	18	配布資料・教材の適切性への評価は概ね良好である。この傾向を維持していきたい。
11	3.7	0	0	7	8	29	19	受講生が100名を超える科目（学部共通科目や学科必修科目）について、評価が低い。ゆとりと学習できる環境の確保が必要である。
12	3.4	0	0	3	41	16	3	2級建築士系の科目について、参考図書が少ないとの評価が見られた。図書はあるにも関わらず、学生が活用しきれていないことも考えられるので、ガイダンス等適宜実施したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(1) 今後の方針

- ①今年度から個々の授業担当者に結果が通知され、個別の改善報告書を作成するようになったので、非常勤講師をはじめ、理解と協力を求め、授業改善に役立てていただく。
- ②シラバスの事前確認の徹底(Web履修登録に変わることから、かなりの改善が期待されるが、ガイダンス等で、「そもそもシラバスとはどういうものなのか」ということを教務部委員から説明する)。
- ③前年度に引き続き、未整備な領域の図書・資料の充実を図る。

(2) 教務部・大学への要望

<授業改善アンケートについて>

授業改善アンケートの質問項目について、演習・実技・実習系の授業にはなじまないものがある(坂書の仕方等)ので、改善していただきたい(学生から「黒板もパワーポイントも使用していないのに、どのように評価すればよいのか迷う」との声がある)。

1. 概評

アンケート実施科目が、平成 19 年度前期の 73 科目から今年度前期は 114 科目と大幅に増加したことは、常勤・非常勤にかかわらず先生方が FD に積極的に協力してくれたおかげであり、大変喜ばしい。一方で、すべての質問項目において、評価点の平均値が大学全体の平均値と同じか、低い値であったことは、大変残念で、反省すべき結果である。

[学生]

シラバスの事前確認に対する学生の自己評価が、依然として低い状況である。

[授業[内容]]

授業内容とシラバスとの整合性において、若干低い評価が出たが、全体平均とほぼ同程度の評価であった。

[授業[教え方等]]

大学全体とほぼ同程度の評価である。しかし、前年度は多くの項目で全体平均を上回っていたことを考えると、学生の満足度は以前より下がったと言わざるをえない。

[環境・設備等]

学習環境に対する評価は全体平均とほぼ同じであるが、相変わらず高い値を維持しており、少人数クラス実施の良い効果が出ていると思われる。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.2	1	10	27	43	27	6	全体平均 3.4 に対して低い評価が出ており、相変わらずシラバスが活用されていないことがわかる。
2	3.8	0	0	1	19	56	38	全体平均 3.9 より若干低い。前年度は全体平均より高かっただけに、学生の自己評価が下がっているのが気になる。
3	4.2	0	0	1	1	19	93	本学で出席が厳しく義務づけられていることと、この結果を合わせると、当然の結果ではないかと思える。ただし、全体平均より低い値が出ている。
4	3.4	0	1	13	55	34	11	全体平均と同じではあるが、依然低い値である。引き続き、授業外での学習の重要性を学生に知らせていきたい。
5	3.4	0	1	5	53	49	6	全体平均は 3.5 なので、若干低い評価が出ている。
6	3.7	0	1	1	27	52	33	全体平均と同じで、大きな特徴はみられない。
7	3.9	1	0	2	18	39	54	全体平均と同じであるが、前年度は平均より高かったことをかんがえると、学生の評価は若干悪くなってきているようである。
8	4.0	1	0	4	10	39	60	全体平均と同じだが、かなり高い値であり、先生方の授業中の努力がうかがわれる。
9	3.7	1	0	2	29	49	32	全体平均と同じ値で、かつほぼ正規分布をしていると考えられる。大きな特徴はみられない。なお、無効データが1つあった。
10	3.8	1	0	0	19	46	48	これも全体平均と同じで、大きな特徴はない。
11	4.0	0	0	4	6	35	69	全体平均と同じだが、非常に高い評価を得ており、学習環境に対する学生の満足度は高い。
12	3.4	0	0	2	71	32	9	全体平均より低い評価が出ている。この項目については、別途調査が行われるとのことなので、その結果にも注目したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

☆シラバスの事前確認に対する学生の自己評価が他学科に比べて低いことは、過去3セメスター連続して本学科の問題であった。しかし、平成21年度から学生の Web 履修登録が始まるのにもない、学生は好むと好まざるとにかかわらずシラバスを活用することになり、この問題は自動的に解消されると期待している。良い機会であるので、より積極的にシラバスを活用するよう、学生に指導していきたい。

☆授業内容や教え方に関する項目(質問 6～10)で、良い評価(4.4 以上)を受けた科目群とあまり良くない評価(3.4 以下)を受けた科目群の間で受講生数を比較したところ、学科の全科目の平均受講生数 33.51 人に対して、良い評価を受けた科目群の平均受講生数が 15～21 人、良くない評価を受けた科目群の平均受講生数が 50～60 人と、著しい差が現われた。これは明らかに、少人数クラスの授業が学生から高い評価を得ることを示している。学科では、今後も可能な限り少人数教育を実施したいと考えており、教務部、大学においても理解をいただきたい。

☆学習環境の適切性に関する質問(No.11)について上記と同様の解析を行ったところ、良い評価の科目群で平均受講生数 19.69 人、良くない評価の科目群で平均受講生数 98.50 人となり、これも上記の結論をより強く支持するものである。

☆今後このアンケートの改訂を行う場合、質問項目のうち、授業に関するもの(No.5～11)をもっとふくらませるのが良いと思う。逆に、No.3(出席状況の自己評価)などは、本学では当たり前の結果が出るので、やめてもよいのではないかと思う。

☆このアンケートは、原則 10 人以上のクラスで実施しているが、10 人未満の授業においても、学生の声を聞く方法を考えてはどうか。人数の少ない科目は閉講、と単純に考えるのではなく、分析した上で対策を講じるのが良いと思う。

1.概評

[学生]

授業に対する積極的な取り組み、出席状況について、高い評価を維持している。シラバスの受講前の確認、授業外での自主的学習については、昨年度前期より評価が向上しているが、特に自主的学習態度の育成が今後の課題となる。学生は、学習態度・出席状況ともに良好で、将来幼稚園教諭や小学校教諭、保育士になるという確固とした希望をもって授業に取り組んでいる。

[授業[内容]]

授業[内容]に関する設問についての評価はすべて、昨年度前期よりも高い評価が出ている。カリキュラムについては、幼稚園・小学校教諭、保育士となるために必要な理論的な面と実践的な面の両面から教員としての資質能力を向上させるようにプログラムされている。シラバスの有効活用方策の工夫については今後の課題となる。

[授業[教え方等]]

授業[教え方等]に関する設問についての評価はすべて昨年度前期よりも高い評価が出ている。板書や視聴覚機器を駆使した教え方の工夫等、教育技術面について、授業公開週間等で教員間で意見交換をおこなっていく。

[環境・設備等]

環境・設備等に関する設問についての評価はすべて前期よりも高い評価が出ている。図書館についての評価も向上してきており、利用率も向上しているようである。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.3	0	1	19	44	23	1	シラバスについての意識は改善がみられつつある。引き続き、履修ガイダンス等において、UP-SWOHAの利用やシラバスの意識付けを行っていく。
2	4.2	0	0	0	6	19	63	良好な評価である。学生は、授業態度良好で、授業に積極的に取り組んでいる。今後もこの状態をさらに発展させていくよう努める。
3	4.7	0	0	0	0	0	88	出席状況は、全体的に極めて良好である。この状態を今後も継続していけるよう支援する。
4	3.7	0	0	4	23	29	32	評価は向上傾向にあるが、学科の基礎科目等で、具体的に自主的な学習の進め方について指導していくとともに、各科目において自主的な学習を組み込んだ授業構成を工夫していく。
5	3.5	0	0	4	31	42	11	シラバス確認の不十分さと評価が連動している。各科目でシラバスの位置付けを明確化するよう心がけ、シラバス確認の習慣付けを行っていく。
6	3.9	0	0	3	14	17	54	おおむね良好な評価を得ている。基礎的知識を着実に定着させ、その上で専門的知識を追究する姿勢を今後とも育ていく。
7	4.0	0	1	5	9	16	57	良好な評価を得ている。今後とも引き続き、授業改善の工夫をしていくとともに、授業公開などで授業改善についての教員間の意見交換を行っていく。
8	4.1	0	1	5	6	17	59	良好な評価を得ている。今後とも引き続き、授業の聞き取りやすさについて工夫していくとともに、授業公開などで授業改善についての教員間の意見交換を行っていく。
9	3.9	0	1	6	11	29	41	おおむね良好な評価を得ている。今後とも引き続き、板書、教育機器の活用についての工夫を重ねていくとともに、授業公開などで授業改善についての教員間の意見交換を行っていく。
10	4.0	0	0	5	8	22	53	良好な評価を得ている。今後とも引き続き、効果的な配付資料、教材の工夫を行っていくとともに、授業公開などで授業改善についての教員間の意見交換を行っていく。
11	4.2	0	0	6	6	7	69	良好な評価を得ている。80年館の学習環境については、満足度が高い。
12	3.6	0	0	0	28	45	15	改善がみられる。参考図書の充実については、引き続き、教員が積極的に協力していくとともに、図書館利用を組み込んだ授業を工夫していく。

3. 今後の方針, 教務部・大学への要望等

初等教育学科は, 学科定員が, 平成20年度以降100名に増加し, 今後, 年々学科の総学生数が増加していく。

施設面については, 現在のところ, 学習環境も整備され, 学生の満足度も高くなっているが, 今後の学科規模の拡大や授業の実態から考えると, 現在割り当てられている教室数とスペースは, 最低限度のスペースである。

カリキュラムについても, 学科規模の拡大と, 保育士関連科目における人数制限に伴う開講数の増加により, 時間割が過密で組みにくい状況になってきている。現在よりも過密な時間割になっても, 授業における十分な教室の確保ができるよう要望したい。

教員養成を主目的とする本学科においては, クラスルームを中心とした学科運営は教員の資質能力の育成という面から見て重要な意味をもっているので, クラスの自教室はぜひとも確保したい。

以上, 十分な教室数と授業スペースの確保について, 今後ともご配慮願いたい。

1.概評

全体的に授業は良好な状態にあり、ほぼすべての項目において前年度の評価平均値を上回ったことから、各科目での改善が進んだと考えられる。ただし、一部の講義系科目においては授業が理解できない傾向にある。

〔学生〕

授業には欠席をしないで積極的に取り組んでいる姿勢が認められるが、授業外で自主的な学習をしていないと答えた科目は、講義科目に多い。特に、教員が交代で入れ替わるオムニバス講義科目などについても教員間での引き継ぎなどを工夫して演習科目と同様に自主的な学習を促していく。

〔授業〔内容〕〕

理系の基礎科目については授業内容が理解できない傾向にある。前年度は授業内容の見直しや学力レベルによるクラス分けなどを行い一定の効果が見られたが、入学時の学生の状況に合わせてより少人数制のクラス分けや教え方の工夫を進めていく。

〔授業〔教え方等〕〕

教え方は全体的には良好な傾向にあり、しかしながら理系基礎講義科目については、年々進む学力レベルのバラつきに対応して、さらに理解度を高めるための効果的な視聴覚教材の活用や授業内容の見直しをすすめていく。

〔環境・設備等〕

学習環境は概ね適切であるが、学習の理解度などの点でよりきめ細やかな対応が必要な科目については、教員との距離が縮まる小規模な教室などに変更するなどの工夫を検討する。また、自主的学習の助けとなるような参考図書を充実させていく。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。各欄下段細字は前年度データ。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5 3.4	0 0	0 1	9 14	54 56	43 29	13 11	学科平均は3.5で、前年度学科平均よりわずかながら上昇した。3未満の科目が減り、3.5～4の科目数が特に増えていることから、比較的受講前にシラバスの確認をしたと思われる。来期のWeb登録開始と共にシラバスの重要性が高まるため、今後もさらに事前の閲覧を徹底していく。
2	3.9 3.8	0 0	0 0	1 2	21 26	54 37	43 46	平均値は昨年度より0.1上がり、学生は積極的に授業に取り組んでいる姿勢がみられる。特に演習科目ではその傾向が強い。
3	4.1 4.0	0 0	0 1	0 0	5 3	34 36	80 71	出席状況は4以上が最も多く、学科の平均値は4.1であり前年度よりさらに上昇した。中でも演習科目は、出席が良好である。
4	3.6 3.5	0 0	2 0	11 17	47 39	26 24	33 31	演習科目を中心に自主的な学習を行っており、前年度よりやや良好である。理解の進みにくい科目については、課題を出して自主的な学習を促していく。
5	3.5 3.5	0 0	1 1	8 9	44 48	51 39	15 14	平均値は昨年度と変化なく、シラバスは全体的に予想通りの傾向にあると答えた学生が多い。3.5～3.9の度数上昇から、シラバスがより充実した傾向がうかがえる。
6	3.6 3.5	0 0	2 1	7 14	32 23	50 53	28 20	平均値は前年度より0.1上昇している。授業を理解できない傾向にある基礎科目については、入学生の状況の変化に合わせて、さらにクラス分けや教え方の工夫を進める。
7	3.8 3.6	0 0	0 2	9 10	26 29	42 39	42 31	全体的には「説明は明快」と答える傾向にあり、平均値は前年度より0.2上昇し改善が認められた。しかしながら学力の差がより開いてきていることから、さらにわかりやすい授業方法の検討を進めていく。
8	3.9 3.7	0 0	0 1	4 9	22 24	34 35	59 42	平均値3.9と、昨年度より0.2上昇し改善が認められた。全体的に授業は聞き取れる傾向にあるが、多人数クラスを中心に、マイクの導入や話の速度など改善を進めていく。
9	3.6 3.5	0 0	0 1	4 8	40 39	44 43	30 20	前年度より0.1上昇し、板書や教育機器の使い方は概ね適切な傾向にある。授業を理解しにくい授業では、これらの使い方を検討する必要がある。
10	3.7 3.6	0 0	0 1	4 5	34 36	53 56	28 13	前年度より0.1上昇し、配布資料は適切な傾向にあるが、授業内容が理解できない学生は、不適切と答える傾向にあるため、理解度の低い科目ではさらなる教材等の検討も必要である。
11	3.8 3.6	0 0	1 2	6 8	18 26	45 47	49 28	前年度より0.2上昇し、学習環境は全体的には適切な科目が多かったが、2.5以下の1科目については、適切な学習環境になるよう対応したい。
12	3.4 3.2	0 0	1 0	8 12	73 84	31 12	6 3	前年度より0.2上昇し、改善が見られた。授業の理解が進みにくい科目については、自主的学習を進めるために、特に推薦図書を奨励していく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

1) 今後の方針

平成19年度前期は、入学時の基礎学力テストをもとに、理系の基礎科目の一つを3人の教員で担当した結果、FD アンケートでも授業の理解度が上がっている様子が認められた。このほかの科目においても、これまでのアンケートをもとに各教員が工夫改善を試み、今年度は各評価科目の学科平均ポイントが上昇した。しかしながら、現在の入試の形態では、理系が苦手でも入学できるため、基礎的理系科目の授業内容を理解できない学生がますます増えたものと考えられる。したがって、一定の学習効果を確保するためにより視覚的な授業方法や復習に活用できる教材の Web での提供など、学力不足の学生に対しさらにサポート体制を強化する必要があると考える。

2) 教務部への要望

授業に積極的に取り組まない学生が「授業が理解できない」、「説明が不明快」などと不満を訴える傾向が認められる。このようなアンケート結果に対してどう対応していくのかを検討する必要がある。

3) 大学への要望

授業の理解度を上げるには少人数での授業を行う必要がある。演習系の科目では少人数の授業が多いが、理系講義科目では受講生が多いため授業を理解しにくい環境にある。理系の基礎科目を学力レベルによるクラス分けと少人数の授業を試みているが、入学生の急激な変容に対応が追いつかない状況である。今後は、さらに小規模な授業にする工夫が必要と考えられる。しかしながら教員スタッフの人数不足などから、持ちこたえが難しくなる状況にある。また、理解度を上げるためにはよりビジュアルな教材を活用する必要もあると考えられるので、プロジェクターなどの視聴覚設備を普通教室、実習室ともに拡大整備していただきたい。また、教室の多目的化が進み、実習、演習室をやむなく講義科目でも利用することがあり、使い勝手が悪い場合があるとのコメントが届いている。したがって、机、いすなどの教室内の設備も講義、演習どちらに対しても使い勝手の良いものが望まれている。

受講生が多く、質問しにくい環境にある一部の授業では、時間外での質問が発生しがちであるが、授業の質問を学生とメールでやりとりするのは、授業担当者の負担が大きい。以前からブログ形式のQ&Aを検討していたが、20 年度からようやく UPSHOWA で実現が可能なところにごぎつけた。しかしながら実際は、システム上の制限から、条件の異なる履修者が混在する科目では全員に教材情報を公開できなかったり、掲示板機能が使えなかったりと、活用できない状態が続いている。折角導入したシステムの活用度を高めるためにも、早急に授業形態の多様性に対応できるようなシステムの改善が望まれる。同時に、教員および学生への UPSHOWA の講習会などの機会を増やすことが望まれる。

1.概評

昨年に比較し、大きな変化はなかった。

[学生]

授業への出席は良好で、積極的に参加している様子がうかがえた。資格必修科目では履修範囲が決まっているため、シラバスの確認がなかなか定着しないが、今年度は指導の甲斐あって、シラバスを活用しているようであった。授業外での自主的な学習に関しては、意欲がないわけではなく、授業時間数が多い、レポート作成に時間がかかるなどの理由で、時間的余裕がないことがうかがえた。開講中心年次で科目をフィルターにかけることができれば、問題の解決策を見出せるのではないかと考えている。

[授業[内容]]

シラバスの内容と授業内容の不一致については、学生がシラバスを確認していないため評価できなかったという面と、教員が学生の理解度によって、内容を修正しているという面が考えられた。全体としては授業内容を理解している様子がうかがえることから、おおむね良好であったと評価できる。理解についての評価が低い科目、学生については、自主学習の評価も低いいため、自主学習を促す工夫が必要と考える。

[授業[教え方等]]

資格必修科目が多く、学生には授業選択の余地がない。また、国家試験の可否に直結する科目も少なくないなどの理由から、授業内容については例年学生からの評価は厳しい傾向にある。そのことを考慮すると、授業展開の評価についてはおおむね良好であった。今後も、学生のモチベーションを高める授業展開を行う。

[環境・設備等]

一授業に対する受講人数について、栄養士養成課程では上限 40 人との制限があるため、環境としてはおおむね良好であった。図書については、学生の要望を精査し、図書館のご協力の下、充実を図りたい。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.0	0	10	27	43	12	0	昨年に比較し、やや改善が見られた。予習および復習への活用など引き続き指導を行う。
2	3.8	0	0	0	14	47	31	例年通り、授業へは積極的に取り組んだと評価していた。
3	4.5	0	0	0	1	5	86	資格必修のみならず、選択科目においても、学生は授業に意欲的に出席したと高く評価していた。今後もこの状態を維持できるよう努力を促す。
4	3.3	0	4	17	36	29	6	実験実習や専門科目については自主学習に取り組んだと評価していた。選択科目についても自主学習に取り組む広い視野を持つよう指導する。
5	3.4	0	0	7	45	39	1	シラバスの確認をしていない科目が多いことから、評価できなかったことが伺えた。項目1とあわせ、シラバスの意義、活用について今後も指導を行う。
6	3.6	0	2	4	23	47	16	授業内容の理解について評価の低い科目で、自主学習(項目 4)の評価が低いことがうかがえた。苦手科目こそ、自主学習を促す工夫が必要である。
7	3.7	0	0	10	13	34	35	概ね良好である。今後とも、この状態を維持するよう努める。
8	3.9	0	0	5	14	29	44	項目 11 から環境は良好であることがわかる。ゆえに、評価の差はマイクの設置されている教室と、そうでない教室であり、今後とも、マイク設備の充実をお願いしたい。
9	3.6	0	1	6	30	38	17	OHP, PP についてはプロジェクタ, スクリーン等の持込みにより、評価は向上した。今後とも、視聴覚設備の充実をお願いしたい。
10	3.7	0	0	3	17	41	31	配布資料, 教材については特記すべき事項は見受けられなかった。
11	4.0	0	0	1	6	38	47	良好である。しかし、実験, 実習室にもマイク, その他視聴覚設備の充実をお願いしたい。
12	3.5	0	0	1	48	38	5	学生の自主学習支援のためにも、参考書等の充実は必須と考える。図書館のご協力の下、図書の実身に努める。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

「授業評価アンケート」の意義について、学生が理解していないのではないかと疑われる点があり、反省点である。実施の意義については、周知徹底を図る。また、アンケートの質問項目が、実験・実習に則していない点も見られた。アンケート質問事項を再検討していただきたい。

学生からの評価の妥当性については、学生自身の自己評価と授業に対する評価との相関を見ることでおおよそ把握できるのではないかと考えている。より精度の高い評価を期待するのであれば、評価において1や5をつける場合には、理由も書かせる、などの対策も必要ではないか。

栄養士養成課程では、他学科と異なり、厚生労働省からの制約も多く、授業評価に関して、大学全体の平均値と単純に比較し、評価することは困難である。さらに、管理栄養士専攻と食物健康学専攻でも専門性が異なるため、両専攻を別に集計し、評価すべきであった。各専攻の特徴を精査することで、よりきめ細かいカリキュラム編成ができると考える。また、カリキュラム上の、あるいは習熟の各段階における問題を把握するためには、開講中心年次毎の評価を集計し、検討するべきであると考ええる。

今後、各専攻の抱える課題の把握とその改善のため、上記3点(アンケート項目の検討、学年ごとの評価集計、専攻ごとの評価集計)をお願いしたい。

1. 概評

大学全体平均と本学科平均を比較すると、設問 no.3, no.8 でやや劣っているものの、他の項目ではすべて同等もしくは本学科が上まわっている。また平成19年度後期と比較すると、no.9で評価が下がり、no.3とno.12で評価が上がった。他の項目ではすべて評価は変わらなかった。評価の上下もすべて0.1ポイントの差であり、総じて19年度後期とはほとんど変わらない。

〔学生〕

シラバスの確認は比較的良好に行われているようである。出席状況の評価も19年度後期と比べて評価がやや上がっており、おおむね良好である。授業外での自主的学習については全学と同じ評価点で、必ずしも高いとは言えない。ことに一部の資格関連科目、書道や絵画制作などの実習科目に評価点が低い傾向が見られる。実習科目ではやむを得ないことであろうが、資格科目についてはやや問題であると言わねばならない。

〔授業〔内容〕〕

授業については特に問題となることはないようである。説明が明確であったか、との設問に対して評価が低い科目としてGPゼミが目立つ。今年度から始まった科目でもあり、学生と教員の双方にやや戸惑いがあったことによるものと考えられる。GPゼミのあり方について再度確認をし、今後の推移を見たい。

〔授業〔教え方等〕〕

教員の声が良く聞き取れたか、との設問に対する評価が上がっており、大きな問題はない。板書・OHP・パワーポイントの使用について評価がやや落ちているが、授業でこれらのものを必ずしも使うとは限らず、むしろ設問に問題があるのではないだろうか。各教員はそれぞれ教材を工夫して授業を行っている。

〔環境・設備等〕

学習環境についての評価は平均点では大きな変化はないが、総じて改善の方向にある。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価 (全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	1	4 2	6 1	2 4	シラバスの確認はまずまずといったところである。 Web 登録が初めて行なわれたが、事前確認は今後さらに必要となるはずであり、さらに指導を要する。
2	3.9	0	0	0	1 2	5 4	6 2	積極的に取り組んだと自己評価している学生が多い。今後の推移を見守りたい。
3	4.2	0	0	0	2	3 1	9 5	出席状況については多くの学生が高い評価を与えており、問題はない。
4	3.5	0	2	8	5 5	4 2	2 1	授業外の自主的な学習は一部の資格科目、実習系の科目で低い評価がされている。資格科目については改善を要するのではないかな。
5	3.6	0	0	4	4 6	5 5	2 3	シラバスをどの程度確認できているのかがまず問題のようである。同時に教員側は誤解されないシラバスを書くことに努めるようにしたい。
6	3.8	0	0	2	3 2	4 9	4 5	前年度後期に比べると、かなり改善されており、授業が理解できているとの評価が増えている。
7	3.9	0	0	4	1 5	5 3	5 6	教員の説明については大きな問題はなく、このまま推移を見たい。
8	3.9	0	0	2	1 3	4 1	7 2	4.0 以上の高い評価が多く、教員の話はよく聞き取れているようである。
9	3.7	0	0	3	3 8	4 9	3 8	すべての授業で板書・ OHP・ パワーポイントを使うわけではないので、むしろ設問に問題がある。
10	3.8	0	0	3	2 0	5 6	4 9	教材については教員がそれぞれ工夫しており、評価も大学全体と同レベルである。
11	4.0	0	0	1	1 2	4 1	7 4	学習環境について大きな問題はない。教室が新しいとは言いがたい中で、予想以上の評価である。
12	3.5	0	0	8	6 0	4 7	1 3	必要な図書が揃っていないとの声はかなりあるようである。ただ、学生たちが実際にどれほど図書館を利用しているか、蔵書検索がうまく出来ているかに疑問もある。

2. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(今後の方針)

昨年度後期と比べて、評価上大きな変化はなかった。その評価を受け止め、授業運営の参考にしていきたい。それなりの評価を維持できているのは教員の努力と指導によるものであり、またそれを支える助手などの職員の支えがあつてのことである。今後もこの評価水準を落とさず、できればさらに改善していくように努めたい。

(教務部・大学への要望等)

授業評価アンケートについては、毎期のことながら、多くの学生がまじめに答える中で、すべての問いに同じ点を付ける学生の存在がかなりあり、中にはすべての設問に最低点を付ける学生もある。どれだけ真の評価になっているかについてはアンケートの回を重ねるごとにますます疑問を感じる。自由記述欄に記述する学生が初期の頃に比べて断然少なくなっていることは、この評価方式が必ずしも有効でなくなっていることを示すものであろう。

さまざまな形態の科目がある中で学科全体の評価結果へのコメントをすることは、必ずしも有意義とは言えず、その点では科目ごとに担当教員がコメントをする今回の試みは、それなりに意義はあったものと考えられる。授業評価アンケートおよびアンケート報告書のあり方も毎回同じではなく、見直しをしていくべきものであろう。

1. 概評

「出席状況」以外は、いずれも全体平均より学科平均が 0.1～0.4 ポイント低く、学生は授業に対して厳しく評価しているようだ。全体的には、昨年度後期よりも若干ではあるが向上している。

[学生]

栄養士の免許の他、栄養教諭、家庭科教諭、フードスペシャリスト等の資格取得という目的意識をしっかりと持ち、勉学に励んでおり、出席も良好である。

免許・資格関連科目が多いためか、事前のシラバス確認が徹底されていない。オリエンテーション・HRなどを活用し、喚起したい。

各教科ごとに、課題やレポート提出が課せられており、授業時間外にもかなりの時間を使い勉強しているのだが、その学習を自主的学習にとらえておらず、自主的学習の評価が低かったと思われる。特に講義科目において自主的学習を促す工夫が必要と思われる。

[授業[内容]]

学生の理解度はおおむね良好であるが、科目による差も生じている。学生の得手不得手や学生間の理解力の差も踏まえ、個人への対応など授業担当者のさらなる取り組みに期待する。

[授業[教え方等]]

教材、資料、power point 等を効果的に用いた授業への取り組みが評価され、おおむね良好である。実験・実習室ではマイクを使用するなど、授業担当者の工夫が功を奏したと思われる。

[環境・設備等]

おおむね良好との評価を得た。学生ロッカーは今まで、2人で1本を使用する状況であったが、廊下にあるロッカーも使用可能となり1人1本と改善された。一部教室、実験・実習室によっては、十分なスペースを確保できていない現状がある。また、参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる整備充実に向け、図書館へ働きかけていくことが必要である。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.0	0	2	32	39	3	0	免許・資格関連の必修科目が多いためと考えられる。 昨年後期よりは若干ではあるが向上がみられた。
2	3.8	0	0	0	12	40	24	科目・クラスによりかなりの差が生じている。 昨年後期よりは若干ではあるが向上がみられた。
3	4.3	0	0	0	0	10	66	全体的に出席状況は良好である。 一部の学生には、学科での連携を密にして指導を実施している。
4	3.3	0	0	8	48	15	5	実験・実習・演習科目はレポート作成などもあり、ポイント が高い傾向がみられる。講義科目においても、自主的 学習を促す指導を実施する。
5	3.3	0	0	2	52	22	0	シラバスの事前確認の不十分さと関連していると思われ る。オリエンテーション・HRで事前確認を喚起したい。
6	3.5	0	0	6	27	32	11	科目・クラスにより理解度に差が生じている。 基礎から応用へと学ぼうとする意欲を、育てよう取り組 みたい。
7	3.7	0	0	0	23	26	27	ほぼ明快と良好な評価。
8	3.8	0	0	5	12	28	31	実験・実習においてはマイクを使用しており、昨年後期 より向上が見られた。
9	3.6	0	0	3	24	33	16	同じ科目でもクラスによりバラつきがみられるが、 おおむね良好の評価が得られた。
10	3.6	0	0	1	22	36	17	おおむね良好の評価。 さらなる効果的な資料・教材の工夫を行っていく。
11	3.8	0	0	0	8	49	19	おおむね良好の評価。
12	3.4	0	0	1	36	38	1	教員も積極的に協力し、さらなる参考図書の 充実整備をはかりたい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ・学生の能力、理解度の二極化のみならず、生活態度や精神面においても個人差が非常に大きくなっているため、授業の進め方が難しくなっている。理解できない学生や、欠席の多い学生には個別に対応していく方途を講じたいと考えている。
- ・学生の評価は同じ科目であってもクラスによりかなりの差が生じている。この対応として、まず、授業に主体的・積極的に取り組む姿勢をしっかりと植えつける工夫が肝要と考える。
- ・本学科は、必修科目が多いため、シラバスの事前確認率が低かった。今後は学期初めのオリエンテーションやHRを活用し、指導を行いたい。

教務部・大学への要望

- ・授業の効率や学生の理解度を高めていくためにも、できるだけ視覚的な教材を用いたいと考えている。しかし、現在食物科学科で、視聴覚設備が整っている教室は2教室のみであり、授業準備・片づけにかなりの時間を要しているのが現状である。そのため各教室、各実験・実習室への視聴覚設備の充実を切に希望する。

1.概評

[学生]

子ども教育学科最後の学年となるので、学生自身もその自覚を持って取り組んでいるように見受けられる。全体的に前年度よりも評価が向上している。本学科の学生の多くは、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士志望という明確な将来へのビジョンを持ち、日々勉学に励んでいる。出席状況も大変良好で、授業に主体的に参加している。授業外にも、積極的に子どもと接するボランティア活動に参加し、経験を積む学生も多い。専攻科は次年度も継続されるので、志望する学生も多く、そのための試験勉強にも励んでいる。

[授業[内容]]

前年度以上に、肯定的評価が上がっている。免許・資格の取得のための履修科目がかなり多いが、小学校と幼稚園の教師に必要な理論と実践に基づくカリキュラムが充実している。

[授業[教え方等]]

前年度より確実に評価が上昇している。各授業は、学生の理解度を踏まえ、適切な教え方であると高い評価を得ている。

[環境・設備等]

前年度より快適であると評価を得ている。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.3	0	0	12	8	14	2	前年度より向上が見られ、学生のシラバスに対する意識に徐々に定着化が見られる。
2	4.3	0	0	0	3	3	30	前年度より積極性が増加している結果だと考えられる。
3	4.6	0	0	0	0	0	36	前年度より更に出席率は高くなり、学生が、子ども教育学科最後の年の講義一つひとつを大切に思っている表れと言える。
4	3.8	0	0	0	9	10	17	前年度と同様に、授業外でも自主的な学習をする学生は増えている。
5	3.6	0	0	1	8	18	9	前年度以上にシラバスを確認した学生は増えたが、更なるシラバス確認の徹底が必要である。
6	4.0	0	0	1	4	8	23	前年度より上昇し、授業の理解については、良好な評価を得ている。
7	4.1	0	1	0	6	5	24	前年度より評価が上がり、授業中の説明については、かなり高い評価を得ている。
8	4.1	0	1	1	5	5	24	前年度同様、授業中の聞き取りについては、かなり優良な評価が継続している。
9	4.0	0	0	3	4	7	22	板書・OHP・PowerPoint等の使用については、各授業の内容により異なるので、一概に評価することは困難であるが、前年度より、高い評価を得ている。
10	4.1	0	0	2	3	9	22	授業資料については、各授業の内容により異なるので、一概に評価することは困難であるが、前年度より良好な評価を得ている。
11	4.1	0	0	1	3	7	25	学習環境について、満足度は高く、前期より評価は上がっている。
12	3.8	0	0	0	5	19	12	前年度より、参考図書の満足度は上昇している。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

「今後の方針」

子ども教育学科の最終年度最終学期である後期に向かって、教員一同、学生に対して、学業面と精神面でも継続的サポートを行っていく所存である。学生が子ども教育学科で過ごした 2 年間で達成感を持って結実できるよう、支援を更に充実していきたい。

「大学への要望」

子ども教育学科は最終年度であるので、学生が最後まで十分な空間で、快適に講義を受けられるような空間を確保してもらえると有難い。

1. 概評

夜間主では在籍者が減少し、10人以下の少人数授業も多いため、平成20年度前期については履修者10人以上の科目を中心に計12科目についてまとめている。そのうちの4科目が他学科との共同開設となっている。また、1科目がオムニバス形式の授業である。データが少ないため、参考という意味合いが強い。なお、前年度後期は9科目が評価データの対象となっていた。

データでは、すべての項目において前回は下回ってしまった。0.4ポイントの減少が4項目、0.3ポイント減少が5項目で、全体平均でも0.3ポイントの減少となっている。0.4ポイント減の項目は、No.1の「シラバス確認」、No.2の「積極的取組み」という主に学生側の心構えに関するものとともに、一方、No.8「話を聞き取れたか」、No.10「配布資料・教材」などは主に教員側に関わるものである。評価が低下したことに関しては、その結果を真摯に受け止め、原因と対策を探って行きたい。

[学生]

学習態度は真摯であり、授業中の発言や質問も多く、積極的に授業に取り組んでいる様子は窺える。授業時間以外でも熱心に質問する者も多く見受けられる。しかし、項目4「授業外で自主的学習」は全体的に不十分で、前年度同様最も評価が低い項目であり、好転する気配が見られない他の3項目についても評価が低下している。勤務や家事の都合上、授業以外に学習の時間を設定するのが困難で、また、学習時間にはかなりの個人差があることは否めない。総じて、学習意欲は認められるが、学習中心の生活が送りにくいのが夜間主学生の特性と言えよう。

[授業[内容]]

授業内容についても、両項目とも前回は下回った評価となっている。学生の授業理解度には個人差が大きいですが、授業内容を理解できない学生がやや増加しているのではと懸念される。同一授業で初歩的な質問と高度な質問が出されるケースもあって、授業担当者にとって、指導上苦慮する点である。

[授業[教え方等]]

この項も評価の低下が目につく。資料プリントや視聴覚機器の活用は授業進度の把握や授業内容の理解上、不可欠のものであるが、学生が満足できる域には至っていないようである。使用テキストの適正な選択もますます重要であるし、授業内容のレベルをどこに合わせるかも授業担当者にとっての毎年の課題となっている。

[環境・設備等]

この両項目については、評価の低下があまり大きくない。大学3号館という新環境が功を奏したということも考えられる。

図書館に熱心に通う学生もいるが、多くの学生は勤務や家事に時間を割かれ、それが困難である。授業時間以外での自主的学習の場を確保することが空間的にも時間的にも困難なのが社会人学生の現実である。今後は学科の図書室の更なる整備などによって、より図書・資料を閲覧しやすい環境の整備が必要であろう。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

No	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	(12) 評価と対策
1	3.6	0	0	1	4	3	4	シラバスの確認はやや悪化している。授業全体を把握するうえで重要であるので、周知徹底を図る必要がある。
2	3.8	0	0	0	3	4	5	学習態度は真摯で、発言や質問も活発である。学生の多くは積極的に授業に取り組んでいるが、学力差や勤務等の疲労から集中力の鈍った学生が増加した。
3	4.0	0	0	0	1	3	8	社会人学生が約7割で、勤務等の都合上欠席・遅刻せざるを得ない学生もいて、多少、評価が低下した。
4	3.2	0	1	2	5	3	1	前回同様最も評価が低い。授業外や自宅での学習には個人差が大きく、勤務と勉学の両立が困難な学生もいる。授業外学習時間確保は今後とも大きな課題である。
5	3.6	0	0	0	5	5	2	授業内容については概ねシラバスで予想した通りであったようである。ただし、学生の確認不足、教員の説明不足の場合もあるので、今後も周知徹底を図って行く。
6	3.8	0	0	0	3	5	4	授業内容は概ね理解されている。社会人学生にとって仕事や生活に密着した、身近な話題を扱う授業が評価される傾向が見受けられる。
7	4.0	0	0	0	2	5	5	前回に引き続き、比較的高い評価がなされている。授業内容、使用テキスト、資料、説明を含め、学生の満足度をより高めて行きたい。
8	4.0	0	0	0	1	4	7	項目7同様、前回に続いて評価が高い。少人数授業が多いこともあり、授業中に学生が内容確認出来る雰囲気があることもその一因であろう。
9	3.8	0	0	0	3	5	4	この項目も前回より0.3ポイント低下した。ノートテイクの能力などには学生の個人差が大きいようである。視聴覚機器をより有効に活用する必要がある。
10	3.9	0	0	0	3	4	5	前回より0.4ポイント評価が落ちてしまった。テキストの使用頻度が少ない、高価である等の声もあるので、教材選択には今後も留意する必要がある。
11	4.1	0	0	0	2	4	6	学習環境は、今回は最も良い評価となった。大学3号館使用となり、学習環境が良くなったと感じられたようで、また、少人数授業が多いことも一因であろう。
12	3.5	0	0	2	5	2	3	前回同様評価が2番目に低い項目である。社会人学生の多くは大学図書館を利用しにくい状況がある。学生への図書資料紹介を密にする必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

〈今後の方針〉

- ①平成20年度前期、文化創造学科夜間主のカリキュラムには、一般教養科目も含め69科目が設定されている(他学科共同開設科目を含む)。一方、在籍者は47人であるので、少人数授業が多くなっている。少人数ゆえのきめ細かい密度の濃い授業が展開されている反面、活発な雰囲気には乏しい授業も存在する。結果的に開講出来ない授業もいくつか生じた。授業時間以外に学習時間を確保することが困難な社会人が多い現状において、これらの科目を夜間に開設することの可否や、昼夜の連携強化など、文化創造学科全体における夜間の位置づけと将来構想について、学科全体の課題として検討中で、それを来年度の新カリキュラムに反映して行く予定である。
- ②平成20年度は、前年度に文化創造学科が完成年度を迎えることから、学生の実状とニーズをふまえて、昼夜全体にわたってカリキュラムを再構築した。その際、昼夜同時開講科目の拡充によって科目の充実と整理統合を行った。科目によっては昼夜の学生が同一教室で受講している。
今後は、夜間主の中心である社会人学生のニーズと能力レベルに合わせた授業内容に配慮する必要もあるだろう。また、Eラーニング等、社会人にとって学びやすい環境整備は今後とも検討課題であろう。
- ③精神的・経済的に問題を抱えた学生が数名存在する。そうした学生には、授業も含めて、学生生活全般にわたってねばり強い学生指導を継続して行くことが求められている。きめ細かな個別指導は今後ますます重要になってくるものと思われる。それを通して学生の自主的な学習への動機付けも高まるであろう。学生の理解度とニーズの多様化の中で、個別指導の重要性が痛感されるところである

〈教務部・大学への要望〉

- ①夜間主学生には、さまざまな面で個別のサポートを必要とするものが少なくない。クラス主任の役割が重要となる所以である。6・7講時の間の休憩時間は5分しかなく、また6講時開始前では勤務をもつ学生の登校は困難で、クラスルーム等を設定する時間的余裕が無いのが現状である。そのため、掲示やメールで指導、対応しているが、徹底できない恨みがある。学生対応が出来るような時間の設定を工夫して行きたいので、ご助援をお願いしたい。
- ②大学当局には環境の整備や美化をお願いしてきた。幸い、平成20年度からは夜間主の教室・教授室が大学3号館に移転し、昼夜統合された。教室の使い勝手も良く、設備の充実もあって、学生には好評である。

1. 概評 専門を担う各学科とは異なる教養教育の特性が結果として表れている。

特段大きな問題はないが、このアンケート結果に加え、SPI 試験の結果などを踏まえ、カリキュラム構成や授業内容・方法などに工夫を凝らし、一層充実した教養教育を行っていくことが必要である。

[学生] 前期は、特に1年次は大学での勉強に不慣れな点があり、後期になればシラバスを読み、意欲も増すのではないかと期待する状況である。曜日や時間で科目を選択するのではなく、適切に選択できるようにクラス担任の協力も得て指導していくことは必要である。

[授業[内容]] 授業内容を理解するためにも学生のシラバスの活用を強化していく。シラバスを熟読させることにより、途中で、「思っていた内容と違う」という理由で放棄する学生の数も減らしていきたい。

[授業[教え方等]] できる限り予習、復習をするように指導し、授業に興味を持てる教材の工夫を教員サイドも努力していく。

[環境・設備等] 授業環境の良し悪しが学生の勉強意欲にもつながることを勘案して、履修人数にあった適切な教室の大きさと設備が整うように、今後も事務センター等と協力しながらすすめていく。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5	0	0	5	45	61	16	まだ徹底していないことがうかがわれる結果であり、事前にシラバスをよく読み理解するように指導していく。
2	3.7	0	0	1	25	62	39	学生からは4以上の評価を得たいところであるが、教養科目は1年次学生が中心に履修しているため、前期はまだ大学生としての自覚と勉強法が十分でないと思われる結果であり、後期に指導を強化していく。
3	4.3	0	0	0	0	9	118	良好である
4	3.1	0	3	29	75	18	2	専門科目の課題の負担や授業準備に費やす時間等において学科間の差があるものの、全般的に努力を要する結果である。学生が自主的学習に取り組めるような、授業展開を先生方をお願いしていく。
5	3.5	0	1	5	42	65	14	科目の性格上よりタイムリーな内容で行う場合には、若干のずれが生じて仕方がないが、シラバスを十分読んでいない学生には、この項目の判断はできないはずであり、この結果は参考程度とする。
6	3.7	0	2	3	27	56	39	予習、復習の習慣を身につけさせる必要があり、指導を行っていく。
7	3.9	0	1	2	18	35	71	概ね良好である。
8	4	0	0	1	17	33	76	概ね良好である。
9	3.7	0	0	7	29	38	53	教員に個人差があり、一概に評価できないが、大教室での板書はなるべく大きく書くなどの点は、教員側をお願いし、学生が理解を深められるよう努力をお願いする。
10	3.9	0	1	4	16	38	68	教員の授業方法に個人差はあるが、現況では工夫をいただいているので、引き続き学生の状況に合わせた授業展開をお願いしていく。
11	3.8	0	1	3	17	44	62	これまでの少人数制の枠が外れ、教室キャパの問題もあるが、イスや机が使い辛いとの細かな学生意見も含め、今後も環境整備の充実をしていただくよう要望していく。
12	3.4	0	0	4	82	38	3	専門領域によって蔵書量が異なる点は否めないが、本学図書館が行っている選書ツアーに、「少ない」と考える学生たちには、積極的に参加することを勧めていく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ① 非常勤教員と総合教育センターの常勤教員との交流は良好である。一般教養科目は、非常勤教員に負うところが大きいので、今後も連携を深めよりよい教養養育の実践を目指し努力する。
- ② 個々の教員には、学生の意見をくみあげ改善できる点は改善していただくようお願いし、教員自身の意見もそのつど聞いてきているので、常に前向きに改善策を考えていく。

1. 概評

問 1, 5, 6, 7, 8, 9, 10 については前年同期（平成 19 年度前期）と比較して、数値的に若干ではあるが改善が見られた。それ以外の項目は前年同期比横ばい、悪化した項目はない。

[学生]

問 2～4 は変化がないが、問 1 は前年同期比 0.1 ポイント改善した。

[授業[内容]]

問 5, 6 とともに前年同期比 0.1 ポイント改善。

[授業[教え方等]]

問 7, 8, 9, 10 とともに前年同期比 0.1 ポイント改善

[環境・設備等]

問 11, 12 は前年同期比横ばい。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.2	3	25	59	71	74	20	問題あり。改善されてはいるが、今後の授業形式、履修登録形式の変更を考えれば、より指導を徹底する必要がある。
2	3.9	0	0	0	24	126	102	良好。外国語の授業は学生が授業に参加せざるをえないので、より積極的に参加させるよう教員側も努力する必要がある。
3	4.3	0	0	0	5	41	204	良好。
4	3.5	0	0	11	79	137	25	概ね良好。学生に対して、宿題・課題を出すことにより、授業外での自主的学習を促す必要がある。
5	3.5	0	0	10	120	106	16	良好。
6	3.7	0	0	5	67	122	58	良好。前年同期よりも評価が上がっている。
7	3.9	0	0	4	32	90	125	良好。前年同期よりも評価が上がっている。
8	4.0	0	0	3	18	71	159	良好。授業中の聞き取りについての評価は高い。
9	3.7	0	0	5	48	133	66	良好。より効果的な学習のためにはDVDなどの映像資料等を積極的に使う必要がある。
10	3.8	0	0	2	27	138	85	良好。外国語の授業は1冊の教科書を中心にする事が多く、他の項目に比べて、若干評価が低いのかもしれない。
11	4.0	0	1	0	7	84	160	良好。外国語は、入門は40人、中級以上は30人を定員としている。
12	3.3	0	1	11	171	63	6	問題あり。改善する必要あり。平成20年度より外国語の参考図書を図書館入り口近くに揃えてあるので、各教員から学生に周知させる必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

- (1) 今後、学生便覧の形式変更、履修登録の方法変更等があり、学生はシラバスを見ざるを得ない状況になることが予想されるため、よりわかりやすいシラバスを各教員に依頼する必要がある。

1. 概評

良好である。

[学生]

教員免許状を取得する意志があつて受講しており、積極的に取り組んでいる。

[授業[内容]]

教職課程科目群には目的的に講座が設けられており、シラバスと実態は一致する。

[授業[教え方等]]

生徒として学校の教員に接した学生の経験を踏まえ、教職につくことをイメージしやすい学びを創設する努力を各担当者がしている。

[環境・設備等]

講義室の視聴覚機器の整備が進み、動画などの映像資料を駆使できる環境が評価されている。また図書館が各教員に働きかけ、講義関連の書籍を充実する努力をしていることも評価に値する。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	2	8	7	7	教職課程の必修講座が多く、シラバスを読んで選ぶ必要性は薄い。UPSHOUWAの効果も出てきたようだ。
2	4.0	0	0	0	3	7	14	教員免許状を取得する意志を持ち受講。積極的で当然。
3	4.5	0	0	0	0	1	23	同 上
4	3.5	0	0	4	6	9	5	講師の方針が同名称の講義で異なり、それぞれの効果が評価に現れている。
5	3.7	0	0	2	7	9	6	教職課程科目群には目的的に講座が設けられている。シラバスと実態は当然一致する。
6	3.9	0	0	0	5	8	11	学生が生徒として学校の教員に接した経験があり、そのイメージを利用でき理解しやすい。
7	4.1	0	0	1	4	3	16	学びの内容がはっきりしている。また教育実習に生かせるよう担当者が尽力している。
8	4.2	0	0	0	2	4	18	同 上
9	3.9	0	0	1	3	7	13	教具の整備が進み、動画などの映像資料を駆使できる環境がある。生徒の学習の実態を教育実習に行く前に講義の中で見せるなどの取り組みに対応できている。
10	4.0	0	0	0	5	3	16	教科書だけに頼らず、今日的な話題を資料提供する取り組みが学生に評価されていると考えている。
11	4.1	0	0	1	0	7	16	教具の整備が進み、動画などの映像資料を駆使できる環境は評価されている。
12	3.5	0	0	1	8	13	2	各教員に働きかけ、図書館が講義関連の書籍を充実する努力をしている。改善の方向が評価されている。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

授業改善アンケート報告書に関連して総合教育センターの教職課程科目群が方針を変えることは考えていない。

以 上